

## 特別講演

## 不確実な世界，腎臓学の課題と未来：私たちの選択

日本医療政策機構代表理事，GHITfund 代表理事，東京大学名誉教授 黒川 清

人体の不思議は長い間の多くの人間の興味の対象であり，生まれ，生き，死ぬことへの課題であったのだ。古くからの知恵が蓄積されてきた。近代医学は西洋のルネッサンスに始まる近代科学と，その発展から生まれた産業革命と歩調を合わせて，20世紀の100年間で目覚ましい進歩を遂げた。生理学の理解から分子遺伝子レベルまでの身体機能の理解を可能とする科学の貢献は，例えば20世紀のはじめの年に始まったノーベル賞受賞者のリストを見ると感じ取れるだろう。

医療，医学においても，人体機能の生理，疾病の「なぜ」についても，そして腎臓をめぐる進歩も例外ではない。250年にわたる鎖国から「目覚め」た，明治維新に始まる日本の急速な「近代化」は，西欧からの知識と技術の導入であった。科学も例外ではなかった。多くの西洋人が日本の発展に貢献している。多くの「エリート」が西洋に学んだ。これらの西洋の，そして現在の社会のありさまは産業革命に始まったパラダイムといえる。

21世紀になって「グローバリゼーション」の有様は激しい変化を見せている。世界は「分断化」され，きわめて「脆弱」になっているのだ。その底流にあるものは何か。どのような方向へ動いていくのか。このような大変化に対して日本は国家としてどう対応しようとしているのか。医療界の動きはどのようなだろう。日本の大学はどうか，医療はどうか。課題はいくつもある。

これらの現象は，産業革命以来のパラダイムが大転換を迎えているのだろうと，私は考える。

「2011. 3. 11」の東北大震災と世界史に残る福島原発事故から，4年余の月日がたった。憲政史上初めてという国会による「福島原発事故調査委員会」は事故の根本原因は「規制のとりこ」であり，原子力政策をめぐる政治，行政，産業界，大学，メディアなどのあり方とそれを支える「日本の常識」に疑問を呈した。この4年余で日本社会はどのように変わってきたのだろうか。その間の世界の動きは何を示唆しているのだろうか。このような背景にも触れつつ議論を進めてみたい。

では腎臓をめぐる課題と未来はどのようなか。このテーマを世界の動きと，日本のあり方を見据えながら，腎臓学会に集まれた皆さんと考え，将来への課題を共有してみたい。

## 参考文献；

黒川清のブログ [www.kiyoshikurokawa.com](http://www.kiyoshikurokawa.com) から

## 1. 1996年，東京大学での最終講義

<http://kiyoshikurokawa.com/articles/wp-content/uploads/sites/3/2007/12/e94b30f78542ab597fc3bf2b39aa4e83.pdf>

## 2. GRIPS Commencement speech 2013

<http://kiyoshikurokawa.com/articles/wp-content/uploads/sites/3/2013/12/grips-commencement->

speech-text-by-k-kurokawa1.pdf

3. 東京大学式での祝辞 2013年

<http://kiyoshikurokawa.com/wp-content/uploads/typepad/201304121121.pdf>

4. 2013年3月4日～8日 日経新聞, 「人間発見 1-5」

① <http://kiyoshikurokawa.com/wp-content/uploads/typepad/201303121648.pdf>

② <http://kiyoshikurokawa.com/wp-content/uploads/typepad/201303121649.pdf>

③ <http://kiyoshikurokawa.com/wp-content/uploads/typepad/201303121650.pdf>

④ <http://kiyoshikurokawa.com/wp-content/uploads/typepad/201303121651.pdf>

⑤ <http://kiyoshikurokawa.com/wp-content/uploads/typepad/201303121652.pdf>